

第 29 期理事会議事録

日時：2017 年 10 月 21 日（土） 10：00～12：10

場所：産業医科大学 ラマツィーニホール 2F 会議室

出席者（50 音順、敬称略）：浅海（九州）、江口（学術）、上田（選挙）、坂本（関東）、中谷淳子（広報）、西（東海）、樋上（研修、櫻風会）、深井（近畿）、宮本（会長）、守田（会計）、山崎（広報）、山瀧（広報）、吉積（九州、全国大会）、荒武（幹事、記）

欠席（50 音順、敬称略）：佐藤（総務）、中谷 敦（研修）

1. 会長挨拶（宮本）

最近では国からも過労死対策などについて相談を受けており、産推研への期待の大きさが伺える

2. 選挙結果（上田）

第 10 回理事選挙の結果、理事全員が再選となった。理事の活動内容について、会員により理解してもらえると、新たな立候補者が出るのが期待できると考えられる

新理事について、総会で承認された

2. 予算決算報告（守田）

1) 第 28 期決算

2) 第 29 期予算

- ・当期収支は約 14 万円の繰越金減少となった
- ・同窓会からの助成金が 5 万円減額し、25 万円となった
- ・大学開学 40 周年記念事業に 100 万円募金を行う
- ・引き続き、あり方検討会へ支出する
- ・システム費は、クレジット決済費も併せて予算化する
- ・振興財団の助成金が全国大会に対してなので、表面上、本体の会計には記載されない。財団として問題ないか、幹事が財団へ確認する（後日、財団より、現状で差し支えない旨の回答を得た）

→ 第 28 期決算および第 29 期予算は総会で承認された

3. 部会報告

1) 総務（荒武）

- ・会員登録システム更新

- 2016年11月～12月にかけて会員登録システムを無事更新した
- 新システムによって、新規会員登録作業がほぼ自動化され、総務担当理事の手作業が大幅に軽減した
- 今後、会費のクレジット払いを可能にし、新システムの会費管理と連携する予定であり、会計担当理事や同窓会江口様の手作業による支払い確認作業が大幅に軽減できる予定
- ・会員登録状況
 - 登録正会員数 650 名、最近会員数はほぼ横ばいで推移。各学部学科に共通して、卒後 5 年以内の会員数が少ないこと、医学部以外の学部学科の会員数が少ないことが課題
- 2) 広報（山瀧，山崎、中谷 淳子）
 - ・メーリングリストの運用について、代理投稿制度やアーカイブ機能（過去の投稿を会員限定のページから閲覧可能とする）について、審議された
 - ・産推研の認知向上のための対策を、あり方検と共同して進める必要がある
- 3) 学術（江口）
 - ・海外の大学などの見学を希望する学生に対し、学生は産推研会員ではないため、直接支援することはできない。一方、40周年記念事業（案）に学生への海外での学習活動支援があるため、寄付を行うことで、間接的に支援を行うことや、同窓会へ働きかけることを検討する
 - ・学術担当から、海外研修の渡航費について提案があり、同窓会に確認をすることになった
- 4. 地方会報告
 - 1) 関東地方会（坂本）
 - ・2016年12月10日に研究会（ストレスチェック制度の産業医と精神科医の協働、理事会との合同企画）を開催。参加者 49 名
 - ・2017年2月24日に研究会（感染症対策）を開催。参加者 12 名
 - ・2017年6月9日に研究会（活動報告、関東地方会のあり方検）を開催。参加者 27 名
 - 2) 東海地方会（西）
 - ・2017年4月1日に研究会（活動報告）を開催。参加者 23 名
 - ・2017年8月5日に研究会（視覚障害）を開催。参加者 30 名
 - ・2019年5月22～25日、第92回日本産業衛生学会が名古屋国際会議場で行われる。企画運営委員長として、医学部1回生の斉藤政彦先生、事務局長として、14回生の上原正道先生が務める。企画運営にも、産推研東海地方会会員の多くが関わる。演題などを含め、協力をお願いしたい
 - 3) 近畿地方会（深井）
 - ・2017年2月11日に研究会（慢性疼痛）を開催。参加者 21 名
 - ・2017年8月5日に研究会（睡眠）を開催。参加者 17 名
 - 4) 九州地方会（吉積、浅海）
 - ・2017年1月28日（土）に研究会（裁判例に学ぶメンタルヘルス問題の最前線、福岡産業

保健総合支援センターとの共催)を開催

5. 第29回全国大会(吉積)

- ・シンポジウム「動機づけ面接」は職種、業務内容に関わらず参加いただけるものであり、医師、保健師だけでなく、衛生学科・環境マネジメント学科の方の参加も期待している

6. 大学・同窓会(荒武)

- ・新教授就任の紹介があった
- ・大学病院南別館工事が着工した
- ・大学開学40周年記念事業について、常務理事より、各学年の同期会幹事、学年のまとめ役を通じて募金活動に協力してもらいたいとの依頼があった

7. あり方検の中間答申(西)

以下について、報告、提案がなされた

- ・H17委員会における提案事項に対する検証
- ・産推研が抱える現在の課題と解決の方向性について
- ・今後10年間の産推研のあり方について
- ・理事会への提案事項

以上